

第 68 回 いなべエフエム番組審議会議事録

1. 開催年月日 令和 7 年 10 月 22 日(水) 10 時
2. 開催場所 北勢市民会館 視聴覚室
3. 出席者 委員総数 6 名 出席委員数 5 名(書面出席委員 1 名)

出席委員の氏名

佐藤 貴志 委員長 辻 忠樹 副委員長
富田 勲 委員 林 敏樹 委員
藤川 里美 委員

書面出席の委員

近藤 栄人 委員

事務局

理 事 長 弓矢 孝己
副理事長 武藤 久夫
事務局長 遠藤 修一郎
 中林 謙太
 浅山 優平

4. 審議事項

1. 報告事項

2. 審議用サンプル番組について

「防災特別番組」 2025 年 9 月 1 日(月) 10:00 ～ 14:00 ～ 18:00 ～ 放送分

出演者 いなべ総合病院 D-MAT 隊員 小森 徹也さん 辻内 友恵さん

担当パーソナリティ 弓矢 ナオミ

5. 議事の経過の概要及び結果

事項 1.報告事項

・10 月からの番組表・番組について

事項 2.審議用サンプル番組について

委員(書面出席)

防災の日にあった内容で改めて災害について考えることができました。いなべ総合病院のD-MATにおいては、能登半島地震の際には災害発生間もなく現地に向かい支援活動され、大変ご苦労なされたと思うのです。私も防災関係を預かる部署にいますので、今後必要な事があればお互いに協力し合い、災害に備えていければと思います。また、D-MATの仕事、災害に備えた訓練のことなど、よく分かり、防災業務に携わっていても参考になるお話ばかりでした。お話の中にもありましたが、災害時には隣近所の方との避難が大切になると思います。自助、共助、公助とありますが災害発生時には共助(地域での助け合い)が大切です。特に高齢世帯の方など普段から近所の方との会話を大切にしてほしいです。これからも防災の日に限らず、防災に関する内容を放送していただき、皆さんが防災に関心を持ってほしいと思います。

委員

D-MATの存在は知っていたが、お話を聴いていますと防災に関して、日頃から訓練など大変だと思います。いつ起こるか分からない災害に備えるのは大変で、いつでも対応できるという事、常に気にかけて頂いておる事に感謝です。能登半島地震の際は、私も物資を持って能登まで行きましたが、通行止め等で、その場所まで届けることができない。しっかりと手続きをして、被災されている方がほしい物を届けることが大事だと感じました。一般の方でも、D-MATという存在を知らない方もおられると思います。この番組を聴いた方はD-MATについてある程度分かりますが、存在を知らない方にも届くようにして頂きたいと思います。この様な組織や考え方があるという事を、もっと知ってほしい。日頃自分なりに防災等について解釈できるように、もっと勉強が必要じゃないかと思います。

老人会の集まりでも、そのような勉強ができる機会を設けて頂けるといいなと思います。防災について、改めて考えないといけないと思います。出演者の方は、分かりやすいように説明してくれて良かったです。地域の住民も防災について考えてもらいたい。できるだけ多くの方に、広めて頂きたいと思います。パーソナリティも上手く進行してくれて良かったです。

委員

私はD-MATを知らなくて、今回お話を聴いて非常に感心させられた。災害が発生して48時間以内に活動する、非常に頼もしい存在だと思います。阪神大震災の教訓から素早い医療体制が重要で、避けられるはずの災害死を防ぐために発足した。救える命を救うという使命感が伝わってきました。活動の範囲は日本全国で、災害が起これば要請があり、救助に行く。そんな組織が市内にあるのは、市民としては非常に安心できるのではないで

しょうか。昨年も能登半島地震のお話があり、行政の体制にも関心したし、今回のお話もふまえて、様々な災害に対する体制があるんだと感じました。災害の際の身構えについて、トイレの重要性、病院が避難所になってしまった件についても非常に理解できて、病院は命を救う場所だと改めて感じました。

委員

ドラマや漫画で D-MAT の存在は知っていたが、同じような活躍をされている D-MAT がいなべにあるのは心強いなと思いました。私たちの企業も災害が起きた際のマネジメントについて、周りの地域や困っている企業の助けがいたった際に、どうしても事前準備ができない。現在もそういった部分で課題が山積みですが、D-MAT は命を救う使命の元動かれていますので、災害が起きた場所に行って、すぐに組織として動けるとおっしゃっていたので、学ぶところが多いなと感じました。

委員

今回のお話を聴いて D-MAT について、知らない事が多いなと実感した。地元の病院にもこういう組織がいるということに心強く感じました。D-MAT は支援に行くだけでなく、支援を受け入れる準備もしていることを初めて知りました。私たちが知らない、見えないところで努力されている事に感謝の念がこみ上げました。いなべもいつ被災するか分からない。お話の中でもありました、病院が避難所になってしまうという事は、救える命も救えなくなる。普段から近所の方との繋がりをもって孤独にならない様にしなければいけない事を再認識しました。医師が不足している事も大きな問題だと思いますが、今回の放送は繰り返し聴かせてもらうことで、市民の心構えや準備ができる。これからも様々な所で取り上げて頂きたい。

委員

パーソナリティの進行もうまく、急性期の D-MAT の役割も大事ですね。私も医療従事者として、病院からドクターは出せなかったが東北の震災の際に事務員と心理士を派遣した。その時の事を思い出しながら聴いていました。医師の数が少ないと病院内の日常業務が損なわれてしまうので、バランスをとるのが難しい。

6. 審議事項に対してとった措置

次の番組制作会議にて検討予定

7. 公表の方法

自社ホームページ

8. その他
特になし

以上